

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

合同会社福祉経営情報サービス

②事業者情報

名称：おおぜ学童保育所	種別：放課後児童クラブ
代表者氏名：松岡 愛子	定員(利用人数)： 80 名
所在地：〒340-0822 埼玉県八潮市大瀬3-9-1	
Tel：048-998-9088	

③評価実施期間

令和4年11月1日（契約日）～令和5年2月28日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

〇子どもに寄り添い温かく迎え入れる雰囲気があり、安心して過ごせる場所になっている

子どもたちが登所する際は、保育者が玄関で「おかえり」「おつかれさま」等と声を掛け、子ども達を温かく迎え入れている。保育者と子どもとのやりとりは和やかで、子どもも第二の家庭に帰ってきたような安心した表情が見られる。視察時はおやつ後に子どもから職員にたくさん話しかけていた。職員も一人ひとりの言葉に応じて外遊びに送り出していた。自ら話し出す子どもも多く、全体的に大人との信頼関係ができているものと推察された。事業所では子どもが通い続けるには友達同士との関係性も大きい、居心地の良さが大切と考え、受け止めてくれるという雰囲気を大切にしている。一定の時間を過ごす子どもたちの様子や表情からも、学童保育所は、家庭以外に安心し、リラックスして過ごせる場所になっているように見受けられた。

〇子どもたちがのびのびと過ごせており、やりたい遊びを思う存分できる環境がつけられている

おおぜ学童保育所は小学校の校庭の一角にあり、子どもたちは登所後に広い校庭で思い切り体を動かして遊ぶことが出来る。一輪車の遊びでは友達と手を繋いでクルクルと回ったり、保育者に手を支えて貫い練習をしている姿も見られる。また、校庭の一角にあるうさぎ小屋でうさぎを観察したり、泥団子を作ったり、ブランコに乗ったりと、のびのびと遊べる環境がある。自由時間は遊び込める時間が充分ある。室内では、コーナーや室内のソファやマットの上でリラックスして漫画等を読む姿もあり、落ち着いた環境の中で過ごせている様子である。また、プラバンの工作では作りかけの作品を保管しておき続き遊びが出来る環境があり、心置きなく次の活動へ移行できるなど、子どもの気持ちにも配慮した環境にしている。子どもたちは学校や家庭とはまた違う環境の中で、異年齢の子どもと共に生活し、普段経験出来ない体験や経験、遊びを通して生きる力を身に付けていくことができています。一輪車やコマ等は、家庭にはないという子どもも多いようであり、子どもは日々貴重な時間を過ごせているものと推察された。

〇子どもたちはそれぞれの興味や関心に応じて主体的に過ごすことが出来ている

一人ひとりの「やってみたい」を大切にして、室内遊びや校庭遊びで数々の遊びを設定している。子どもたちは遊びを発展させていき、様々な活動に取り組んでいる。「静かな時間」は漫画を読んだり、図鑑を見ながら絵を描いたり、それぞれ興味のあることに没頭できる時間になっており、子どもが自分の時間を過ごせるような環境と時間がある。また、クワガタやカブトムシの幼虫を飼育したり、けん玉やコマ、おはじきといった昔遊びで「級」を設け、より難易度が高いことにチャレンジしたり、将棋倶楽部のメンバーを募集したりと、興味に応じて過ごすことが出来ている。視察時はクリスマス会に近いこともあり、子ども達は準備や練習に忙しそうだったが、プログラムの作成は子ども同士が考えており、相談しながら準備を進めている等、興味のあることに取り組む中で、自主性や主体性を発揮して過ごせる環境がある。

◇特にコメントを要する点

○単年度計画や5か年中期計画のPDCAを徹底し、施設の発展につながる仕組みとすることを期待したい

中期事業計画としては法人の第二次5か年計画が策定されており、その内容に則って運営されている。また、指定管理事業計画をベースに法人事業所の計画書とし単年度計画が作成されている。計画策定時は事業所内外の環境を踏まえて課題を明確にし、中期、短期の計画に反映させPDCAを徹底して着実に取り組んでいくことを期待したい。

○職員の育成と成長のための仕組みづくりを継続し、人材育成の基盤が整備される事を期待したい

法人内研修や外部研修、日常の指導が実施されている。調査時点では階層を役職別に細分化して研修等育成のための手段を明記した「キャリア開発マップ」を作成し、人材育成の強化に取り組んでいる。育成目標と研修体系の整理などにより、体系化して総合的人事制度が確立されることを期待したい。

○小学校との連携を強化して、子ども個々の情報共有をしていくことが望まれる

学校との間で学校と学童のお便りを相互に渡して、互いの取り組みの概要を理解している。そのほか、下校時刻や行事については共有している。また、何か気になることがあればお互いにやり取りはしているが、連携が取りづらい状況であるようである。子どもの生活の連続性という面で小学校での様子や学童での様子をお互いに共有することはとても大切なことであるため、周りの大人が連携し、子どもの安全や成長を見守れる体制を強化していくことを期待したい。

⑤第三者評価結果に対する事業者のコメント

今回第三者評価を受けて

家庭と学校の間にある学童の生活が、安心・安全でその子らしさが出せる場であって欲しいと願い、職員間で色々な面において共有し、子ども達と過ごしています。今回、第三者から学童の一日を見ていただく中で、職員が子どもに寄り添い温かく向き合っていると感じて頂き励みになりました。

より一層、子ども達の声に耳を傾け、子ども主体の生活ができるよう突き詰めていきたいと思いません。期待や望まれる事には、前向きに取り組んでいきます。

保護者の皆さんには、貴重なお時間を頂きありがとうございました。ご意見に応えられるように努力していきたいと思いません。

⑥各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり